

分類学報 12: 437, 1974). 初島住彦氏はオオカラスウリにこの学名を採用している(初島, 琉球植物誌: 追加と訂正 II: 895, 1975). しかしこの種類に対する最も古い学名は、台湾から記載された *T. laceribractea* Hayata であ

り、オオカラスウリにはこの名を使うべきである。中国植物志ではすでにこれを採用している(中国植物志 73-1: 228, 1986). 正名と異名とはそこに詳細に書かれているのでここでは省略する。(東京都中野区 [redacted])

おしば標本貼り付け用ヒートシールテープの自作法 (金井弘夫)

Hiroo KANAI: How to Make Heat-seal Tape for Mounting Herbarium Specimen

ポリエチレンラミネート紙のテープを、電気ハンダ鋺で熔着しておしば標本をマウントする方法は、今やわが国の多くの標本室で採用されている。この道具は「ラミントン」の名で、双葉商会から販売されてきた。ところがテープ製作の手間が経済的に引き合わなくなったため、先行き供給の見込みがなくなったという情報が数年前から流れ、何とかならないかとの問い合わせが、開発者である私によせられていた。現在の最小6mm幅のテープを元のロールから切り出す技術は思いのほかむづかしく、双葉商会の羽代茂氏が、カット業者(スリッターと呼ばれる)と共に苦労して開発した賜物なのである。私の当初の要求は5mm幅だったのだが、そこまではゆかなかった。こういうテープは他に業務用の用途がなく、おしば用にのみ特製されていたのである。つまり鋺よりテープの方に金がかかっているのだが、テープには元をとれるほどの値をつけられない。「鋺はいらないからテープだけ欲しい」と言う人が多かったが、双葉は鋺を購入した者にのみテープを供給するという方針をとっていた。このため、個人ユーザーにまで普及し難いうらみがあったが、実はこういう背景があったためである。双葉商会によれば、たしかに新しくテープを作ることではできなくなったが、しばらくの間はこれ迄のストックで対応できるとのことであった。標本室をもつ大口ユーザーはすでに十分の量のテープを確保していて、さし当たり痛痒を感じていないようだが、この方法を維持普及するつもりなら、打開策を探しておく必要がある。そこで近い将来に備えて、このテープの自作法を探ってきた。シートを買って細長く切ればよいわけだが、入手もカットも口

で言うほど楽ではない。以下に紹介する方法では、出来ばえは双葉製に及ばないので、双葉商会に在庫がある限り、そちらを使うことをおすすめしておく。

テープに用いる加工紙は、金井1974ではヒートロン(南国パルプ製)、ラミコート(東京加工紙製)と紹介したが、今回調べてもらったところ、ジャピロンPC(日本紙業製)とのことだった。これはレーヨン紙にポリエチレンをラミネートしたもので、銘柄は5-1715、これは坪量17g/m²の紙に15μの厚さでラミネートしたものだが、他社の製品でも使えるだろう。現在われわれが使っているテープ状のものの類似品は、メーカーでもちょっと考えつかないそうである。この紙は和洋菓子の包装などによく使われる業務用で、小売り店での購入はむづかしく、製造元でも小口の注文には応じられないという。元のロールの大きさは幅1250mm、長さ1000m(直径25cm)とのことで、われわれではちょっと扱えそうもない。この点からしても、双葉商会が永らく供給を続けて下さったことを多とするものである。

市販品としては、おし花電報で使われているような、アイロンを用いておし花や切り抜き記事を封入する趣味の材料として、「ぴたっこ」(小津和紙博物舗製)という品が販売されている。この商品は75×80cmのラミネート紙一枚で、価格は1000円とかなり割高だが、発売元への直接注文なら、量が多ければ割引があるとのことである。雲竜と無地があり、雲竜の方が繊維が長くてよさそうである。この品は東急ハンズのクラフトコーナーでも販売されている。ミュージアムショップで扱っているところがあるかも知れない。こ

のほかに店頭でもっと安く入手できないかと、東京浅草界隈の包装材料店や和紙専門店を当たってみたが、見つからなかった。菓子製造業にコネがあれば、入手は可能と思う。乾めん類の束にも、このテープの類似品が使われている。スリッターに接触できれば、切り残しのロールを入手できるだろう。これが最も安価な入手法である。少量なら、家庭で消費する菓子類の包み紙を再利用すればよい。この紙は思いのほか多様に使われているので、商標や文字を気にしなければ、個人の需要を充たす程度にはあるだろう。ただし、紙を重ねて切ろうとしても、シート間で滑ってしまっと思うように切れないし、手間がかかり過ぎるので、この点を解決する必要がある。

テープの作り方はまず、シートを巻いて筒状にする。このとき繊維の方向に巻き取るよう注意する。テープとして使うときは長い方が便利だが、筒が太くなるとカットしにくいので、2-3mを太めに巻くと扱い易い。ゆるまぬように紙の端を軽く熔着するか、粘着テープでとめる。これをニンジンのように刻めばよい。写真用カッターを使うと楽だが、摩擦で断面がくっつき合ってしまうことがある。しかしこうなるとかさばらないので、しまっておくにはかえって都合がよい。テープの幅は目分量で調節する。こまかい標本のためにラミントンテープを割いて使っていた人には、このやり方の方が便利だろう。切る幅にもよるが、前記「びたっこ」一枚で、一人のマウンターの約一カ月分の作業量がまかなえるとのことである。この作り方は、歌舞伎の「土蜘蛛」で用いる、蜘蛛の糸の製作風景

のTVにヒントを得た。

ついでに記すが、ハンダ鋸の電流調節には、コントローラ付きの電気スタンドで十分で、スライダックを使うまでもない。これにふつうのラジオ用ハンダ鋸をつなげばよい。鋸先部分は市販のままでも使えないことはないが、より使い安くするにはヤスリで削るなり、チップを引き抜いて加熱し、赤熱したところをハンマーでたたいて、望みの形に加工すればよい。

ここに記した会社の連絡先は次のとおりである。

小津和紙博物館. 103-0023 東京都中央区日本橋本町 2-6-3 小津ビル内. 電話 03-3663-8788.

双葉商会. 155-0031 東京都世田谷区北沢3-8-10. 電話 03-3466-7702.

ラミネート紙について教えていただいた、日本紙業株式会社特殊紙営業部の駒坂則雄氏、試作品のテストをしていただいた、東京大学総合研究博物館の滝沢糸子氏に御礼申し上げます。

追記: 製造元にたまたまあった小幅のロールを、とりあえず入手してある。これはジャピロンPC 5-1415で、ラミントンテープより一段薄くて頼り無いが、標本貼付には十分使える。希望者には実費分与するので、連絡されたい。個人用でもかまわない。

引用文献

金井弘夫 1974. おしば標本の新しい貼付法. 植物研究雑誌 40: 89-93.
(184- 小金井市 Tel/Fax)

Tel/Fax)

新刊

□鳥袋敬一編: 琉球列島維管束植物集覧 改訂版 855pp. 1997. 九州大学出版会. ¥18,000.

1990年に出版された第一版を改定したものである。鳥袋氏一人の著作であるが、編とあるようにこれまでの出版された多くの人の琉球関係の報告書を纏めたものである。しかし纏めるには編集者の選択が必要だから、鳥袋

氏の著作と考えてもよいであろう。なかなかの力作である。しかしこの本の原稿が書かれた以後にも、学名の変更されたものがあるし、新しく発見されたものもある。また琉球のイノコズチ属について書かれた多和田真淳氏の論文の一部は引用されていないので、同氏の幾つかの種類、特にダイトウイノコズチ